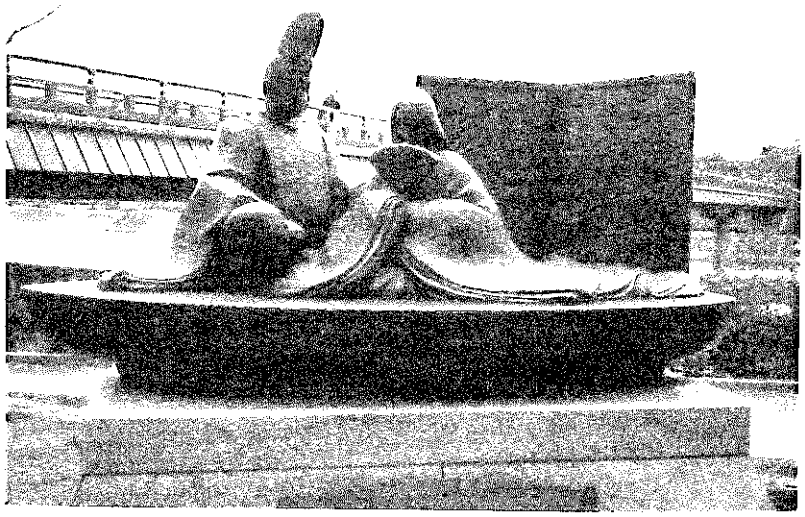
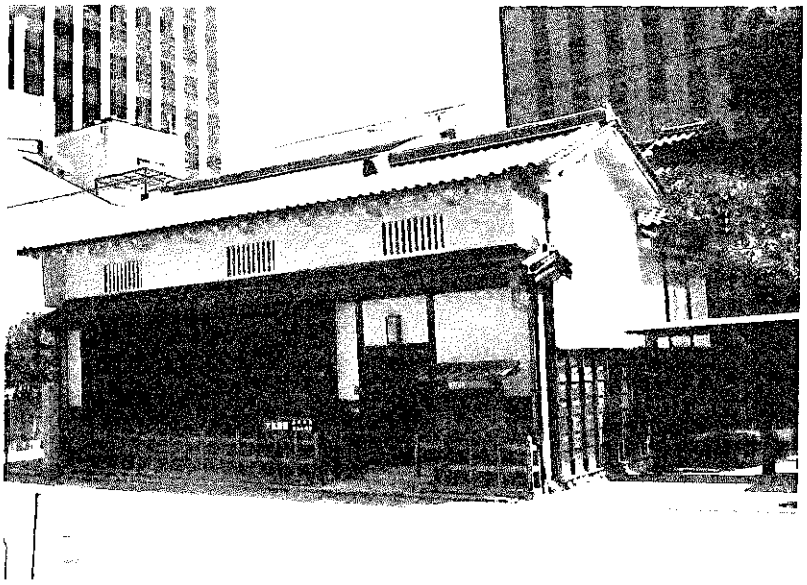
●第70回の　『宇治十帖』
（宇治市）

平安時代・紫式部作「源氏物語」（光源氏をとりまく人々の全54巻の大作）の最後の部分で45巻「橋姫」～54巻「夢の浮橋」を「宇治十帖」といわれ、ここ宇治が舞台になっている。

中の島へ渡る朝霧橋の所にあるこの像は、「匂宮(においのみや)」と「浮舟(うきふね)」が漕ぎ出す場面をモチーフにしている。





●第80回の　『適塾』
（大阪市）

緒方洪庵は文化 7年(1810)備中（岡山）の生まれ、17才で医学を志して来阪、中天遊の門下生となる。

江戸に出て、蘭学者坪井信道のもとで苦学すること 6年、更に長崎に行き、蘭医ニューマンに医学を学んだ29才の時、再び大阪に戻り瓦町で医学に専念、弘化 2年(1845)ここを買い蘭学塾を開き、適塾と名づけて洋学を志す者に門戸を開放した。

文久 2年(1862)江戸に奥医師として迎えられるまで20余年の間、 3,000人に及ぶ人材を育成したのである。

種痘を施す『除痘館』も開設し、今の緒方病院がその跡である。

●第82回の　『統国寺』
（大阪市）

詩にすぐれ、詩文の指導には、規範にこだわらず個性を尊重する塾を、堺に開いた漢詩人『広瀬旭荘』の墓がある。

又，質商を営む町人であるが、天文暦学者で江戸幕府の改暦にも参画した『間長涯の墓』もある。

ベルリンの壁は東西ドイツ統一の次は、南北朝鮮の統一を祈願して、在日韓国人である和尚が設置した。